



ANNUAL
REVIEW
2013

東北大学大学院医学系研究科・医学部

日本医師会医学賞受賞

循環器内科学分野 下川 宏明 教授

循環器内科学分野の下川宏明教授は、平成24年度日本医師会医学賞を受賞しました。日本医師会医学賞(Medical Award of The Japan Medical Association)は、日本医師会会員で、医学上重要な業績をあげた研究者に、毎年1回、基礎医学、社会医学、臨床医学で各1名、計3名に授与されます(今年度の臨床医学の受賞者は2名)。今回の下川教授の受賞は、「日本人の虚血性心疾患に関する基礎的・臨床的研究」に関する業績が高く評価されたものです。

下川宏明教授は、日本人の虚血性心疾患の成因に重要な関与をしている冠動脈攣縮の研究における世界の第一人者であり、幅広い基礎的・臨床的研究によりその分子機構を解明し、新薬の開発にもつながっています。

動脈硬化の進展防止に極めて重要な役割を果たす血管内皮の研究では、長年謎であった内皮由来過分極因子の本体を世界に先駆けて同定し、世界の研究の発展に大きく貢献しています。

また、日本で増加している重症の虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)の研究においては、ユニークな発想から、低出力体外衝撃波を用いた低侵襲性の血管新生療法を世界に先駆けて開発し、臨床研究を経て有効性と安全性を証明

し、現在、世界15ヶ国、約3000名の虚血性心疾患患者の治療に使用され、日本でも、2010年に厚労省の高度医療として承認されました。

さらに、2011年の東日本大震災では、宮城県医師会副会長として活躍し、現在は東北大学医師会長、宮城県医師会議長として日本医師会にも貢献しています。



記念講演を行う下川教授

NEWS

下川教授は、8月にドイツのミュンヘンで開催された世界最大のヨーロッパ心臓病学会年次学術集会において、最も注目される演題の一つとして「東日本大震災による心血管疾患の著明な

増加」についての発表と、プレスリリースを行いました。その内容が英国の学術誌 NATURE REVIEWS CARDIOLOGY (2012年11月号)に掲載されました。タイトルは「Cardiovascular diseases after the Great East Japan Earthquake」です。